

# 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 研修

2024  
年度

MTDLPは作業療法士の一つの臨床思考過程を説明したものであり、本人にとって「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てたマネジメントツールです。MTDLP研修は**基礎研修→実践者研修**で構成され、実践者研修の修了をもって修了証が発行されます。

## MTDLP基礎研修

(現職者選択研修 必修項目)

MTDLPの概要を理解し模擬事例を通じて各シートの記載方法を学びます。

2025年 1月26日(日)

9:00-17:00

【参加費】 4,000円

※オンライン開催 (Zoomを使用)

1台のパソコンでの複数名参加はできません。

## 受講対象

- 日本作業療法士協会及び各都道府県士会会  
員で、**2024年度年会費**の未納のない方
- Google無料アカウント、Zoom無料アカウン  
トを準備し登録できる方

## MTDLP実践研修者

基礎研修修了後に臨床場面でMTDLPを実践し事例を発表します。発表を検討している、実践事例を聞いてみたい場合は聴講もできます。

2025年 2月7日(金)

【参加費】 19:00-20:30

発表者1,000円 (県外2,000円)

聴講者500円

## 申し込み

QRコードを読み込みか

下記アドレスよりお申込み下さい。



申し込み多数のため  
まもなく締め切りです！

## 振込先

- 郵便局：口座番号 00800-8-189875 ● 加入者名：一般社団法人愛知県作業療法士会
- 通信欄：①研修会名 (開催日時) ②日本作業療法士協会会員番号 ③氏名 ④所属先

＜キャンセルについて＞参加者都合による参加費返金は原則致しかねます。ご了承下さい。  
事務局メールアドレス aichiotkenskikai@vega.ocn.ne.jp へお申し出ください。

メール内容に①開催日 ②委員会名 ③OT協会番号 ④お名前 (協会登録名) をご記入下さい。

作業に焦点を当てた実践にはさまざまなジレンマが伴います。以下はその一例です。

【理想と現実のギャップ】例えば、対象者が「治りたい」と望む一方で、実現が困難と予測されるケースです。この場合、現実的な目標へ修正すべきでしょうか。

【他職種と意見の不一致】例えば、対象者に褥瘡があり、DrやNsが治癒を目指す一方、OTとして離床を進めたいケースです。この場合、何を優先すべきでしょうか。

【時間や資源の制約】例えば、入院患者数が多く、1人当たり20分か時間を割けないケースです。介入時間を捻出するために残業すべきでしょうか。

私達の仕事にはジレンマが伴い、多様で複雑です。しかし、ジレンマと向き合うことが対象者にとって意味のある作業の獲得に繋がります。その手段としてMTDLPの実践が有効であるケースもあります。例えば、上記の例に対して「合意目標の形成」「多職種連携の促進」「目標達成に向けた本人の主体性促進」という作用は有効ではないでしょうか。

MTDLP委員会 小笠原和将